

週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎(752)0453 植田 進 ☎(487)9754
いはら 忠 ☎(488)7207

発行
日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5
☎(483)1151

学校図書室の本が買えない

——八千代市内の小・中学校の学校図書費激減——

新学期になると新しい友達と教科書との出会いが楽しみで、ワクワクするものです。また図書担当の先生や司書の方たちは、「どんな本を子どもたちに読んでもらおうか」と楽しい構想で一杯です。ところが今年は八千代市内の学校から「今年の児童図書費はたった2万円?」「2万円じゃ、課題図書も買えないよ」という悲鳴が聞こえています。どうしてこんなことになったのか、現場の先生たちに対する説明はありません。

八千代市は27年度になって突然学校図書費の単位が一桁も違ってしまいました。(下の表を見てください)

八千代市の学校図書費

(単位 千円)

	平成26年	平成27年
小学校(22校)	15,055	2,200
中学校(11校)	11,364	1,100

類似団体の佐倉市の学校図書費

(単位 千円)

	平成26年	平成27年
小学校(23校)	4,150	5,070
中学校(11校)	2,120	2,150



中央図書館建設の借金が、影を落としているのでしょうか。

図書室は学校の文化の中心です。大きな中央図書館ができて、身近な学校の図書室が充実していなければ、子どもは本好きにはなりません。毎年子どもをひきつけるたくさんの新刊本が出版されています。この本と触れ合うことができる学校とできない学校がつくられてしまうのが今回の予算配分ではないのでしょうか。

文科省は、図書室の本の冊数さえ満たされていれば、「標準図書達成率」合格という方法で優良・優秀の判定基準にしています。各学校がこれを達成するために古くなった本やぼろぼろになった本を廃棄処分しないで冊数に入れているとしたら問題です。

本を大切にすることは教育の一環ですが、本を通して友達との交流や新しい知識を得てコミュニケーション能力を育むためにも、どの学校にも新刊本の購入は必要です。日本の教育予算(3.8%)はOECD(平均5.6%)の中でも最下位です。

日本共産党は教育予算を増やし、文化的で豊かな教育をめざして頑張ります。